場
附後編むくの葉 全

へ0
3869
70

3869
70
3942
4
大正七年三月吉寄
室井平藏氏贈

宝暦たゝえれもろこゝろ
至席先生こゝの風体の中より
雑体むくのゆふと号し場所を
撰り出し和歌今又後編綴り
ひ〻しれ世のりて拾ひ集とする
生るといふい
沖かりゑ川参と戒名付遠ふ
題沖かりゑの法名たゞふりとを
よりて仮和国えより親の病家
二人をとをふ孝子法名とをて
早速迎へ仮ふ五十すさいとと
もゝ作りゑ命ふや孫と黄泉の

客とゆうぬせんてん戒名を考ま
こ送る海中行遠の白なゝん
略立裏　某い者うて出来ん
題略立裏風俗ある高宅又い若
頃者ないとゝ考やうる書位
者にて下女ゝたのたゞひ後痛ほと
ゝる四業をなゝ平忠平等
後ゝ女右の袴を述ゝ男の
思ひ付ゝる生来んに
あゝきるい
題

磯よ耳餅の答く山ゝ
ゝる一真ありとゝ乱れ
耳とあるふゝるゐと附てゝ
題ゝゝゝてて恵ふ使なり
題入部の日とあゝハゝる利ある
面し錆准之

青畳　女の横ゝ反橋　里橋
後巷　床の音ひ橋考る　横道
若屋居　家子丸掃部する　二三
沖堤　浜ゝ除瓦ふ帆ゝ舟　梅里
湯屋先　浴衣上ゲふと横を向　至向
板殻輪　辻占ゆすす三丼の高　羽雀
宙二階　妙薬のすゝふて居る　君香
檀梯子　牛の毒ゝ丸めん家　冬十
紙帷　筆のゆゝのみ宮拍　鈴宗
亜安寺　何のかのゝいを会我　我拍
、　所の巻る古我場　周山
友有蜻　女の仏屋ふ多る　高立

桐火桶　築山の雪あゝ　春夢
多の居窮　心の中て　鶯を多る　嵐山
襄行居　浅乃宮ゝ大寺花　公雨
、　年寄の泊居付士　二双
、　耳の燥掃洗濯日　千之
多丸亭　多口と多ふ友の指　我弓
、　耳洗ゝ丸亜拝人　鬼十
、　さふゝ清き沖亜　二三
琴の音　海山の月を笑て居る　三之
、　入やう霞す夕百巻　双羽
、　冬の百ふゝ雑男　富山
青嵐　薪生ゝる多の内　春二

花の滝禁一光り金扇　冬十

、　狩捨て有る田の波　、

三味線の音も絵に波山

迫り縁むらまつぬ古戦場　、

、　押の利く浪華　芝山

、　おしひるも弱ふるり、

橋普請よりひやりせ木やり　丑流

、　文字考り撰る海　、

、　木挽りもぐら沈脇　凡子

金屏風きのふに変る堺すし　文英

、　底江入楚と思ひ初め、

、　打ふ法令ふ生来ふ限一来

片田舎　誰よ人目とまるのふ変一来

、　生ふ分ハ浜よぬき　、

昔年も呵よ合ひ単来

慈の巣　平二ふ祖ば高　如陽

、　ひとの歩ふ反木立、

、　蝶を狩ふ入ふり来史

寺侍ハ百屋の内ふ弁酒、

、　玉の艶の有ふ海京木

、　智ハぬ拝ふ山こう、

谷の影　松もおやぬ山さん廿二山

、　表ふおへ〳〵梅の花、

、　月の恵知ふ見ひ左奇橋

苔の松　浪おだやかなる緑のうさ　青嵐

、人作の山ちらす花、

、我〻漕ぐ舟　石似

沖の船　拍子ふ叫れ寄り不、

、ゆらゆらもれぬうきもとび　文波

、いつくのうす霧、

彼抜る　画図年の蒼る鐘　赤仙

、　絶主板て張いの字、　窓

、　高人の乳ゴ　十修　九山

水の月　ぜ力の活さ入る、

、　盗人の夏ゐるん、

、　仮りを結て良て抜る　要子

夕嵐　雲付上人　活る　金水

、　和歌浦の　夜の　び、

、　百姓と言を蔵刈　晃丸

衣の仮　行るやくる様の言、

、　見ぬ都をする　絶　乗夷

、　辺へくと　盆下り、

利仕す　雪のしのぶ　冠人

、　幸　猪る法　、

、　我よのせ結よ　人　周来

放る　人の　く若び　士、

、　やくむ　物　子

、　里ひのまにうから　、

若葉陰坊主持る延抵火縄　秋笛

、雛子帝貝をもてる火の芦水
蛍の餌よこうて居る秋夕

神楽堂　梅花の蕚る鈴の音千樂

、欠落ある時雨の宮、

、湖への庵る多賀日如風

持仏堂　人ゐるの元の樫所　古子

、破寺蔵の宮人居り、

、撞の在し山うゝ理十

七夕廊下　贅沢蔵ていさ、

、ゐて遊さきゆるゆ嘉風

、ひとり云いよ小姫、

志ひ柳　如者りそうる細付　金花

、指猫も成好やう、

、ふうとおりしるる有　百里

斗淀先打〳〵ゆる潦、

、心のうくく弱舗　淺人

、挨拶崩すれの言、

四畳半　変ふ天宗忘者分　蕉笛

、五臭ひるたゝ多、

、人のたけを投入まる秀三

小紫垣　後心ある咲くひ、

、男ひれ淺の蕚の風屋風

、乙ゝ碧り魂ひ、

口吾の夜　浜ハ五丁里黒丸子呉之

、　いきじを立てゝ[illegible]、

名と滝川し　横丁　舌敲　角子

、　内庄屋[illegible]て月の　有、

蕪山　崔蕪の亟所呉之

、　西川の筆初の[illegible]、

雪の跡　芋が芋　切て居る右方

、　庄屋あるゝ[illegible]、

ツメて[illegible]八柱[illegible]の　白仙

、　うゝの室好　後筆、

蕪ノ引　[illegible]九の出ル八九　戸十

、　男ひ[illegible]部乙、

朝日影　枕さつまて清の秀文英

、　四半ほうぐふ多蕪、

金柱　提世[illegible]る[illegible]　風子

、　清[illegible]

晩ハ蕪　雄や[illegible]人蕪　水　尺清

誕生日　云ゝ[illegible]大男、

水の[illegible]　[illegible]に[illegible]　士弦

、　かうぐの曲に[illegible]　みゝ、

長家日　[illegible]花の[illegible]　金子

、　菴の[illegible]　[illegible]、

[illegible]　やゝ[illegible]菴の　定定

、　蕪[illegible]茶[illegible]、

一節ハ清ク濃ニテ俗ノ香 壽士
茶入ル 扇ノ骨ハ雪の翠 ヽ
他人向 文りとハぬ意ヘ 史来
冷し物 少すゝ小なるもてなす ヽ
ヽ 実ハ城芋や麓の屋 加子
雪佛 ふと数そふ三ケの庫 ヽ
茶の里 降て至ぬさハ花奇 呉流
ヽ 何ぞ老たい体所の筆 ヽ
梅の雪 死人て生る名残 我る
六十国 降り咲し梅の花 ヽ
蓮も砕る系統し 甚山
茶の香 我も弱武士衣 ヽ

三月三日 晴 ヽ
ヽ 未熟の雲の人 ヽ
角屋敷 無残ら〳〵き生涯 古梅
ヽ 蛙なきまゝぬけぬ 親父ら
魚ト水 扇風の陰のさゝめ 彩子
ヽ 猪子屋風の浮世 同士 ヽ
浪ぶね 女車ま 楊ちり 今之
ヽ 去り状ハ出さ子 蛙子 ヽ
大道ニ 森付て居る屋造り 周子
ヽ もとゝ咲せる拙本居 ヽ
何ぶ者 月遅ゝ世て入るの月 破石
ヽ 扨と親父ハ 父ハ ヽ

塀の内 たゞく樓如法寺 金之
、 夜叉の降りし風の音、
、 人こゝハ花ぬれみゝ笛子
海ト山 拾ふ海ゝ 浪ゝ、
、 他郷方てころ方て戸卜
納戸口 ゆゆの有 宮 鼎、
、 思あの者ゝ浦 事 ゆる人
屋敷 墨画 月のみ 八、
、 又 藤ゝ 岡の人 伝志
、 横田へ 猶 辺 、
浦 赤 延 九の上 八 琴ノ風
、 有 封 入 猿 役 矢、

沖の船 石である 樟の 波名
、 いつて 甲 変ゝ
赤 青 んめや 山 家 姫 春二
、 足音とせ 牡 面、
子貝 おめこの 紀のみゝり 五 雲
仕 馬 お 名の 中に 首 姫 魚 樹
秋の 空 新 れ 恋 恋 梅 実
浦 頭 ゆ 蔵 の 蔵、
、 くゝ 女 家 其 山
月の 屋 ま 竹 ゝ
、 形 ゆ 八 ゆき 二人 連 青松
歩 浦 の 猪、

俺住居いとゝ木枯乃下屋敷雅

、親の勅命もこれ也、

附合よ　茶をすゝる酒樽酒　酒乗

、書き来ふた駄句、

情ゆゑ　知ふく育よ去ば　吳流

、金よりも情ゆゑ　百羽

琴の音　産をメゝ　如客

、母親の筆を汚す、

筆記　杖てもゆくの名を　一風

、其俳ハ世てゆる、

血の著る　味ある面白意味有、

、生方も下戸やゝ　道洞

鶴男　よ無屋打ッふ仕合　五灯

、義理の名ゝ　たゝけ、

日本國　始りハ京の二月月　梅道

、弥ゝづゝ　俳諧、

冥加元　奪る面へ汗ゝいて　青牙

、矢の音ゝを宝地　魚灯

ふゝ玉　上屋ゝ　竈ゝ、

茶屋堅浦　鶏鳴の島ゝ　三枝

戸の透間　内へこゝやすふ梅の風、

、　型ゝ面ゝ　迷ゝ

、ゝ　ゝれを伝ゝ　花筏、

杉陰よ　沢の有ゝふる咳　馬皮

[illegible]ス 松[illegible]ハ時雨 宋史

、 生傾ハ皐ヨ隙、

桜の木 [illegible]国の名[illegible] 寸伽

、 [illegible]さうを又用ル、

四[illegible]事 意地の悪[illegible]方 子弦

[illegible]る 何國[illegible]ん、

[illegible]かる 風に[illegible]の[illegible]竹

芦火焼 難波男の初の[illegible] 青仙

孫[illegible]の一[illegible] 仙子

孫を[illegible]て花の[illegible]、

[illegible]高 為に[illegible]の[illegible] 凡よ

、 小つ[illegible]十二三、

富士の山 三國一原の有ル山や道[illegible]

、 [illegible]のうもれ[illegible] 史要

[illegible]ハ 云ひ[illegible]ハ[illegible]ハ 舎九

、 [illegible]の[illegible]を[illegible]、

中ニ口 [illegible]ちよ[illegible]ハ[illegible]ハ 右国

、 童[illegible]の[illegible] 凡子

[illegible]月 [illegible]有り 古我場 [illegible]之

[illegible]組テ 木[illegible]ハ 伝[illegible]ひ、

[illegible]ん[illegible]ん 巴エ

見上レハ 四方に隅[illegible]の[illegible]、

[illegible]る[illegible]の[illegible]人に[illegible]せ 里[illegible]

三の山 [illegible]の[illegible]の出来ん 晩山

雲の足　俊成　君風
芙蓉屋遊
深し船　芭蕉の　ゐるを　ゐつくろう　風子
山ト坂　手まりひいふうみよいつむなな　巴山
柴の庵　松風　ゐつくしの　木の際　旧丸
立の足　塩辛ひ　奇特　十搗
、　接拶　ちるも　拶　、
、　久ひ遠く　ゐつくしの　史雯
所嫌き　辛ひ　味に　ふおる　足来
、　おしひるも　笑ひ　、
、　ゆたの　ゆたの　味ひ　ゆる
筆夜　人を　ゐつくしに　ゆる　芳来
、　素人の　時も　物ゐる　佳来

、　生掃　生てる　生　指　、
切ゐつ　臺さ　ゐる　母ひ　素　一来
の火
、　狸の　孔ゐ　破拶　寺　、
、　禁酒も　仕ゐる　ぬ紅　唐山
嵐木戸　背の　ゐつし　江戸　、
、　連中　影が　鼻へ　ゐる　古丈
、　宙に　浮ゐる　贅奴　、
縄　二挨拶を　教ゐる　一如
、　同の　潜よ　ゐつ　青　、
、　毛貫の　角に　隙ゐ　十搗
足　斎足　夜ゐる　ハ　狸も　生ル　ゐる　、
、　ワキを　働く　出る　羽山

、 月宵連の笑ひかな、
巡行堂 夕アれるを教へて 至斗
、 掃捨ら出くりちぐさ、
、 はる浮世のかのう 虎由
、 現俗 是なんりうの新月や、
、 揚あはは法ふのの 玉枝
、 親父ハ肌を脱り、
、 変化多 光りかな つみる汗 聖三
、 打ちまきひ息上、
、 天窓うつ生ず冷あ 仙子
、 大なる毛先風流ぶうえ、
、 ひよ者りしり刈場、

、 猿の目源ぶる鼻の先、
鏡磨 扶屋の沢流りける来史
、 女の拘の拭 所、
、 怪貫の不法ぬ男術 晩山
、 坪の内 夏の夜と結源国 子弦
、 石鉢の元寿、
、 弱ト社の音いぬき 其山
、 涼床 又ごろちや往、
、 怪うへ一ハ吹 三弓
、 ふとを元の屋、
寺の庭 賢史の喫 史山

、誰ゝ多ん潦、
放菴 狸のおとり星月夜 一来
、あるく笑ふ憂傑、
、屠のふるひ知り日 如風
裏借家 雀れ海の影つき、
、うきいとも猟立 千秋
、友の多餐ひか、
辻芝居 多ゝ行きれ二双
、皆代ゝ成て、
、るゝ級軍 被集 石山
下り隙 好ゝ男のゝ、
、けゝ意の傷ゝ 不入

、猟師ゝ女も掘を喰へて、
、抓ひの尽く紙亀 其山
、あゝ眠ゝ、
門虎 法ゝ女客 宣推
、押ゝ、
、狐の下るゝ文好
搾牛立 心て泣て笑ひ生、
、味ふ平く気ゝ 不二
、你ひ平のゝ、
道造り 大名乃息 老氏 虎九
、瓦姓の乗いき、
、古々のゝ異ひ歩 十子

、 思ひのうけと筆の
石の板よへ筆の多米おゆの栄雅
、 誰ら和と浮と名付ん、
仲人も汗ついてゐる正水
ゆの道ちの偽ひとうゝ、
、 よひ男の咳拂淺人
、 人の和ひ失打の失、
玉襷いとく拵ゐる腐ゝ 麦水
、 夏の雲ゐる玉の汗、
大吉松のおぐ上ケ長乐
海頭 若ひ時ゐの入痛、
燥拂 三番叟毒ふ後毒 一来

、 次捕の上のうゝのめ、
、 石ゐ笑ゐ海ゐ弱沼其幸
七宗月 拵ゐ遠ゐ屋家、
、 入ゐ蛙ゐ七宗十橋
、 蛙田をこかすゆ滝、
鐵ふの者 魚屋の門を接へる子弟
、 私しゆ接所へ行道 高木
、 ふを立ゐ洗蛙、
麻蒸麺 江戸ゐ麻うゐいす 夏
、 こ方ゆよ立ゐ、
、 おれゐ毒とハスつて佳山
、 小栗味の悪ひ他唐山

たの宮　昔語りの生一ッ、
船ノ中　宇治の都のあらう屋
、　深い心を汲み、
[illegible]　[illegible]の宮旅ゆき　巴流
、　[illegible]て[illegible]ると[illegible]、
[illegible]　天秤て琴打消され
、　我のゆうの島の月　寸伽
[illegible]　吉町を渡るう、
、　[illegible]町の[illegible]言　奇木
、　[illegible]の数久[illegible]、
[illegible]　山々[illegible]と思ふ意　如風
、　やつ[illegible]　不二

、　ちづんぶき山陽、
谷の水　宗居の力流て[illegible]　夕山
、　心の秘く[illegible]所、
、　ちつと心の[illegible]
[illegible]力　かい[illegible]へ意衣　一力
、　おもきぬ情知り、
、　せ[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]　見捨ら[illegible]て[illegible]
、　[illegible]を[illegible]ら船　双羽
、　生[illegible]字の教[illegible]
谷嵐　[illegible]く生の[illegible]
[illegible]　内我南[illegible]を[illegible]へ吹[illegible]

、拙之文拙句などもせぬ、
、もふ孤人はどこへ　周山
愴然冥すて仕舞ふまあ汗、
、冬ゝも孤ゝ遊出す　金彩
、句ふ〻ふ〻ふ　九文、
三百　何国へ恍の出る　周水
、猫で猫を負て仕課、
、猫ゝ山ふ〻負　山る
大猫に動章のゆ〻ゝ、
、ふわふ入の雁ゝ　吉山
、大仮ゝ出て猫ゝ、
猫に嵐の茶見世　南江

二月緑　九条西頭宮　史雲
、又女房に嘘付し、
格の供　坂やに新ま　緑屋　文管
、なのゝ筆ハ公ま、
、侍ふおいふ投鳴田　晴
市ノ川　ゝ五ゝ、
、屋ゝ光ふ　蛙
秋ル雪　聖中の鶯　幾
京の手ゝ　唯空
、亭へ行ゝ　遠
宮芝居　丁雅もませ　千尺
、乳母とぶ　人

ぬし　床机の上に腰をかけ　公英
、妹をうちつれて居る、
揚り口　モウ段々の云ひ付　不労
、海苔の俵を出す、
肝心の時人来る　双巴
、
空手　血をまとうたいふて居る、
、　眼の者そこに二ツ鑑、
、　ゆづらいすらふて来る　仙舎
いろのまとり合の言葉　、
、　一人笑ひを後ろ
まつ最　件のまつ手の候　左来
、　窓の外に鼻毛　衡、

仲居　男に行てもとりなイナ　二三
、　不沙　卒度をコツテ　、
海苔　杖を腕　左國
、　主人ほとさせ新拵、
、　我も先より母を待　文木
ケタイシリ　モウ七時とうに過ぎ　地十
、　後会は先へ去ス、
どうまつる　国の上方へいきう　周来
、　四ツ橋四ツのらまで、
、　を修町のどうせや　如凡
大名舩　ぬせうぐくの松ぐり、
、　川をとこむ、る大石足、

結びて是をふるの手を以て示す

、鬼の手の引かれぬ踊りを

波の彩七人ちらぬ踊りを

、金石に物ふる仕合百羽

定ふき舞ちらし変形く麻の

、今と使ひにくにちとり

、浮沓の竹の体五穀賛銘志

、浦土の海鬼り人落

、舞を浮沓の墨衣

走り牛毒に成るものを我る

、辛と寄るふ者

、結ふ上手ふる

、塩振つまぬるを

、令せ庭元係ふ麦掛

、小つゞの腸ひ寄朝

、麦のあるおゆ水

、庭にきいふりの

、何ふ云ぬ風情

角行徳 重戸柵の麻ふ 義門

、麦八ふ麦のこ

、水ぞふとふ

、足に金粒ふ後 一来

、庭ふふる白狐

玉兎 ふぬ線て絲 珍

仕、横賀派う有、金矢
たゆへて有笑ひ、
そきもの紙にかゝる、
後の五てふ精舎百間
高人家ハ貧にして深夜、
五つもこゝろづつけ、
贅沢ちゝと作て万来
先ちり紙無とかむ、
こゝそこの山ゝ
格子窓
大ものの形低ふ高き
罪作り在通り
琴の音の浅ち五来
多治

時ひ後夜黒塗子の移らく
蕪の宮の猿ゝ
茶の手ちる
ちたいるすゝ一正
そゝれ生まれ
掛人笑にかり
金手の浮も高
只孔とるおい紙
蛭まの
編人てなるおも
部へ孔り緑の出来金水
若治日子土重子
松雪指ふ後の朝

まりを羅て迷ひ知るの時 栄雅
、 余ふてゞ言て雄男 、
、 二階ひとゝ鶯の松 吐周
、 十寸蟹の汐の新らしく 、
ふのす湯すて海嵐の涙ゆ 孔子
、 下雅をおとゝ夫や 、
、 どんとあけの浮 一来
れ降るいまゝこゝに飯の新 、
、 沢の有るゝ井蕎 、
、 菜ゆ屋ゝみ仕ひ 其李
すまり 酒ゝ所とゝ浪り 、
、 そゝゆ自淫せんゝい 奇木 茶

十二 耳のあゝ眉の波 ゝ童
、 辛ひ角蛸も吞ゝひ 、
蓋上安豆ゝも せび 来る 秋 文英
、 ゝに忘るる 品 、
、 おゝひ ゝ井 酒 二三
、 年味の兎 ゝ の ゝ
雅の風 孫ゝと角行と 如て 捨 、
、 原人の生 似ゝふてゝる 佳仙
、 ゝ紅ゝ ゝ小 ゝ
ゝ人の兎 延ハ生み ゝ 拾る 、
、 人の孫 ゝ 巡 ゝ 保 周来
、 青 隠ゝ ゝ ハ 咳 拂 、

はるし空惟沙弥蓼摘我等
、　ひまの長沼魚ふと
、　ゆくしの移る掛り人菌
旅後先べに結ひへ菊の高
、　寺号山号かつ一末
、　馬とろて疲
瓦窪　鬼の志賀もものか
、　浮世のあれ小原宝
、　女とほし出世
教の旅時に代る俳筵
、　近ち石へ掛少行住
、　人を先へ女性

月のつき二ヶ月ゝ初り永寿寺一山
、　あに来ゝ
仏ナの右ハ古ハ掛ゝ　古林
、　木の下蔭の今ゝ屋
杉の花志ゆきて海ハ小の一末
広ひ堅強と強せ住
、　居の酒弱ゝまにハ落の屋角之
秋の風志ハゝしありの釣瓶
、　女房の耳にゝ宝推
、　人人ゝにゝみ
ハの異風の来ゝりに藤ゝ
御結て幸ゝと幸の赤瀧

咲ちる梅の蕊の株乳茶 ナ花

、 芝の菴へ立も附ナ、

、 浮世へ浮ゴ墨衣宗花

、 弁当洗ふ寺の井戸、

、 ぢんる提ちつく〳〵、

侍と家 かさて呼も又戎子蛇

、 庵うゝ去めるまつの、

、 穴へ行ぬうゝ的其事

、 友たすの〳〵松のゆり、

、 一揆提て部屋、

ミックロ さ馬る 食らて客ら自〳〵野を金石

、 智かまてゝ拾葉、

まかへ 酒ちまれし半番 一口

、 強りつめゝ、

、 射ゝ行大坂と事如風

、 空言て女を蓋メ、

、 見てられまする紅ナ、

タイトコ 参所 ツイ長ゝ参ふ参行く 梅里

、 ヒ事信ゝ学すお乳の人、

、 乗家も成ヒ年立、

、 扱を抱へるあれる義里橋

、 ワカ芝ふ物ゝる三方の彩、

イ、スコ 云ゝ参ゝ酒屋寄て立梅枝

、 ヨット 丈の人屋の内、

、 決、生に拵後丸　文貫
、 過去の門々行ふ、
、 昔作りる百姓一束
翌年喰のたるぬ茅楊の動
、 二人の中に勇猛吟
、 後ろ人を玉火燵、
、 行灯を消す口舌の釈、
、 つゝく出る沢もぐき茶ト
、 現在晩ゝ仕ふとかもめ尻、
、 面出に立ふ言ふ話、
、 僕る時言のるゞれ者　百両
、 鮫る然奮るの瓜を磨、

現在一家舎流の国付来史
注連内　山ふのゆるる町後　嵐来
、 源の立る振活所、
、 手るの面宝蔵の達　平弦
、 宝引縄も糸ゝ、
、 めやも白い海ゝ、
水のふせ是を誠の二ツ粋　佳流
、 物ゝ男ゝ猿を神、
、 すゝ坊の舎ゝ人　周
、 恪筆の角もゝ生る、
蕃椒　舟ゝ仕立ゝ御ゝ人　一九
、 伯父に奚見を加へ、

発句集　序　校訂　芝山

、　隠居もこの句を附て居る、

塚の屋根　坪の内めて雪ふる　松水

、　ゆるゆる地蔵ねて生る、

かすみ初だらもみけしかゝて　雪りや

、　却りて〳〵名も人か　一口

、　三ア四五りハ歯て　ゆろ、

、　秋あの世ほ指て　ふ仙

秋の風　昔又あるぬのハ　庵の松、

、　身ニこゝ〳〵　二三

、　今と盛りと　蕎麦、

、　海人〳〵水も　ふ

女房士　尻と〳〵ほき　仕之　凡子

、　作興きこの　解中　、

高ゆのかゝハ　凄し　孤月　不仙

、　波〳〵出て　ゆ　魚、

長屋　入桑ゆ　一山

、　女房　へくを　裏、

、　酒の高ゆ　二枝　、

棚　痛ん　痛ん　、

、　先四五ハ　ひ汁　其李

、　侍の　能　ゆ

涼し　浴衣　ゆ　一九

、　人月ゆ　ゆ

洗髮　ふだに成てより了ひ　先之

、男のやうなる家の
、面白の柿へ一ト籠　十花
、ちらかりて来る女房の
、傾人人ろうしい　咄
戸折戸　冬ハうちゑ　、
、里栗の狂ふ女房土一来
、何てもいふ　煙口　、
、ちさ一に二度　
、色ハりへねと　
巨燵の火　とうや生　鳴ひ　十橋
、罪を作りし　侍　、

かくまれ　姉へのやうな　窓の月　瓦
、　贅の背ろ　男之　、
、　手紙のよた　推考ふ　平蔵
江戸道中記　時うんする　、
、　色の　ろ　ろ　寸加
、　ろへ　我と　去る　、
、　四ッ　戸代の家　梅風
、　弗　画に　ろ　、
、　ま　と　殺日　百洞
、　向　ち　弾て　玉　、
、　狐の　ろ　唖聾　古山
、　父　ん　田人　、

心地結サかく様衣の襟の紋の芳妻
、そそ尾形の主の海の、
、ふる初るう男の子其寺
、客、一トもに徒店へ、
、磯辺の魚の女夫合一山
残念な木皿をひろいと病上り、
、鯉の赤ち接の人扇
、ち名盤へて安接付ル、
、ふ世人参ッ主ぬて一来
、切らせて来て浪ぬ、
林の茶屋雪解の水て来も凡子
、粧を落に来る水俵、

正月巾ま〻ふ人ふ借家数一双
、店の人数ふんで表、
、吟耳ち名郷お巾妻
一文業の工まする、
、傍に高人平生記嵐子
、抑付ル生墨も十モ鬱、
、交を見さ桃窓吐周
、市家姫のまゝかミ、
あまとて和事芝山
、猪ふ屋凡の信者、
にぎ行る池に遠人ハ氣を痛メ凡子
、浮世人を知ち元の寺、

絹被　治部考ふ小うめと　千秋
、　辻て多ゝぬ菜奏　、
、　切たの吸　ふ栗　柿三
、　行ふ我の拂ふ西ノミ　、
、　金のつきそる手ズ　仙石
蛍狩　灯籠日包ませる　、
、　人の狩ふ金うち　其水
、　庭と蛇山の舟組　、
人待夜　帽子の猿を繰仕ふ　芝山
、　口とふくくる見よ　、
、　かゝはきて漬瓜簪　一子
、　凄ふりくる物ふ　、

あつの蛍　人り狐ふ　祇園　三名
、　古殿帽子ふ雲の峯　、
、　土小喰入る塚の雫　一お
、　月の白あき拾稚　、
、　西瓜ちぎりにふり吐水
擬宝珠　石所せる玉の弧　、
、　和光同塵　魔
、　二階に拾ふ　客ノ、
紙吹り　栗拾のり人ふ　金魚
、　姉と娘も　、
、　あ入て男立　一ふ
あいそのあ　仏稚終　、

貸屋ふく欲らしい言ふ対 嵐雪

、 昼影を世を見せやり、

月ふ帯 姫うさぎ影さびの母、

、 どこで大坂の仔勝糸 九子

、 八の国ニスルニ屋居、

踊り好 稼ぎふ高たまし 京木

、 はの匠の彩も踊る、

、 寺屋へを居をやふ 一口

、 客て劇ひ森の物、

、 誰もをを丸ふ面飛 芝山

強仕人 一足ふ化強仕人、

、 糸浦の塩の月を要 一来

、 汗をいふ苔麦客、

大井川 捲先で馬潜て行く、

、 魚ふ羅ふ近赤び 扇

、 動為文しんも、

毛抜出 ふちとをひ三宿麦

、 二文にあひ渋あ、

、 又実見紀と迎て生る賀

筋帯 吋斗う後に屋り、

、 お客ハ皆と言ふ別 言葉

、 欠落ふの男ボキ、

遊ふ迎 成てうろくだの遊人 金毛

、 素麺賀り人ふ利、

旅の人名ひ出て附狸里十

、古沼より二百五十間

後に立堂で山門大きく、

下雅の速ハ桜ちる李太

、俳句ハたゞふ書て置、

名上り月元に俳合の会有中、

、うハの空なる月ん圭子

心の中てさむふ蘇る、

、毋に孫なきこゝ寂元、

呼て

、夫にさゝと粉ら玄来

、そりと和しく後番、

、主地の有そる接の梅枝

速ひ棚　知年も終なく詩の　史山

、おゝひ亀てゆく女房、

、肌器の筆和かに　吐周

、風ひ人ら去ふや蛙を、

、蛙に罪あり鶏の、

ちる狗よ一夜あり未れ　嵐来

、江戸ゝ子蛍狸、

、頁ゝと泳て花春日一来

賢年月　内ハ茶の茶と呑ず、

、侍の出る花の寺　蕉

雛月夜　死よ仏のう寒ひの紅、

、女ハ郭の下を行　友

新町橋四五人いつる合図　二三

、　もゝにたへと云て云ぬ、

、　濱女ハ色ハ白りあのこる山る

、　山ハ紅葉もちりも流の水、

、　名代と謀す焼賣屋、

、　明の鐘　低石の角るとゝ　甚ま

、　衣〳〵のおロの内、

、　灯ともびく義ちく、

、　ぢ〳〵に義ちく二ツ取り　一口

貸ゆ愛　乃紙〳〵屋る旅芳、

、　毒忘磯〳〵　弾て有　十花

明の鐘　やりめ鳥ハ先人起　一口

貸方愛　度の紙〳〵　みゝ見ぬ　十花

、　塩ゝふる衣裳も出る、

、　わ〳〵ちく敷ハ義ゝ　左来

、　西上り　鯉打ゝ　格人だり、

、　吹平の和ゝ山る、

、　ゝ〳〵の夢ゝ　我る

、　額乃宮ゝ見ぶく、

、　伽羅ゝ堀者てみる、

、　大切る　ゝ〳〵ハ拔ゝのみて　吐間

、　お侯女人ゝ　ゝ

、　病人ゝ医者ゝ　十花

、　撥不ゝ女房拔ゝ、

、守り人参合住居、
二階の夫　私ゝ居ると住て船ヨウ一口
、きそ程とゝ及ハ大ゴ、
、物ゝ乾ゝ貧も家てゝ人、
、ゝ家ゝ拵て孔ゝ嵐来
、退屈かゝ居ゝ有ゝ、
、夫の一の夫、
、見世に掛け簪一来
、書翰佩て仮ぬそや、
、ゝ恍惚の黒丸ゝ、
、そゝぬ新て夫ゝ十花
生来色根八山てあゝ門の松、

、袖に金もくの様、
、板並ハかゝハ恨ひ入り、
、草物ゝを好く女連、
、吹ゝ会ゝる中芝居一来
、ゝんきの　吹ゝ寄るいゝゝ切り、
、計ゝ癒ゝる法ゝれ、
、新芽ゝ門ゝ有ル拵ゝ間
、一面の　読ゝてゝおゝ鮫、
、設ゝ吹　夢ゝ様ゝむ月の家、
、念仏の夢ゝ周東
、灯を　ゝとゝきゝ吉吹、
、想ゝ思ゝ旅の影、

ゆをもと時々ちゃうちゃう一口
、義に仲間を引合せ、
、常宿は酒をかくられ者
ゆをもと弱よすくれと成難く、
、数度と傳ふ座四つ一風
、酒の者ゝ傳の呂れを、
俄り仕居小姓淵て居る立周
、湯をあゝよーて淵安、
、石て座れぬく奴給ナ子
、噂射来て酒ふ髪傳う入、
、仕事ところかい去物着
、懐へくと入らく、

風呂
、みんせゝりに来る供芝山
、新りせを被書ゝ、
、神ふりの夢れる御宿口一水
、仕去へくふりゆ、
、床机の極ひ十三座扇
、松のもを絞て切、
唐国入
、先ゆくのり酒屋家
、ゝ流す撃、
ろくり撃刺町へ出げの花咲
、者ひつりよなん、
、手飛斗ハ元座一来
、ふう笑辛て粋かり、

野後く広い西川の中くを換一子
、今に小町と云人
、かゝる数々とう小屋の池梅風
金樹琴にまきれて悪い蛙、
、赤花と浮世相撲 吐周
、名とん絵の女医者、
、ゴモ坊ゴモ男形口一九
、下見の猫やんどあき、
孔雀猫とする我ら恋風子
、ちくもの掌侍、
、ちんのまハ祇てみる 翠巴
、罪と通る牛の時、

金火徒拘へており嫁の新 風
、扨〳〵子孫の種所、
、聞と姫を好 綱 蟲
坪の内 梅に歩り〳〵 象 扇絵
、石屋クメ ゆり石竹 扇
、本作り空てうん穴い、
行主廻ナ子見に男二人ハ云 東史
、猫でこんまと仕係る、
、親父て宗八赤光り三尺
袖き孫 小拘る 紅 紅
、伝と云ふる小姫 東
、ちんの山雪

大井川

、えいりとても越えがたく一日
、勅命蒙候て分けぐつと
、国元の所の力みも荒
、秋のりの抑も定まり
、ぐつとさへまのひを高
、いと〻衣の肩を抱
、如中宮失のもぜるのもて
、人ねうもかりし一九
、荒とかり時抜
、墨絵の馬図あにあり沈し二三
、国の親を呼せ
、解る美枝の岩肩

、思ふて酒と飲ぬうらとく
、絵地て宮の香を
、仰うの松ハ冬
、竹床松風の形ぬ牛人下り
、ふうう
、うきねんけさ
、笠の風拾ひ口舌のあ
、ふハ高ぐるねひ
、せよかん人記念ぬ山
、紅の猛心のうう
、山清もうるのあ
、池の陸森のけ

女の事 陳と砂のあそらせ 双巴

、 老たるあハ琴の

、 つまるホハ撥をあ 巴山

部の子 子多とうぐるメイコ拍

、 誰ゥは生の代系

、 あいつて みる 登ゥり 一山

せゥ子ひ 中に姓々小役帳

、 絲香のちゥもの 宮 ぬ風

、 人とゥ人ゥはみておの山

、 玄生ゥ子ゥる 山 事

、 三番 四 ゥ 登ゥり

、 遠ゥ子ゥ ゆゥ たゥ 花 侍

蔭の義 義の月 子 大 風 系

、 文 て ゥ子ゥ 仲 亀

、 打 音 ゥ 月 生 ぬ の

水の音 心の 知 ひ ゥ り 猿 掛 風

、 世 と 怪 ゥ子ゥる 嶺 事

、 明 ゥ子ゥ の 沼 へ て ゥ よ き め系

風の音 夜の月も 会 ね 大 江 双 波

、 永 経 和 の 一 音 事

皮 羽 織 むゥ の 姿 歌 ハ て 扇

、 軍 の 吋 の 弾 ま る

、 ふ を い ゥ わ 又

、 歩 る の 仔 迷

明和五年戊子
正月吉祥日

浪花書舗
心斎橋通唐物町
北田清左衛門梓